

第1回「若者・女性部会」の開催結果等について（報告）

1 会議概要

■ 日時等

令和7年12月22日（月）13:00～15:00

オンライン開催

■ 議事

- (1) 部会長及び副部会長の互選について
- (2) 地方創生10年間の成果と課題について

■ 出席委員

委員8名中、8名全員が出席



2 議事

■ 部会長及び副部会長の互選

- ・ 部会長は牛崎委員、副部会長は佐藤委員に決定した。

■ 地方創生10年間の成果と課題について

- ・ 事務局から、これまでの成果と課題を説明。
- ・ 各委員から、御自身の経験を踏まえて発言をいただいた後、意見交換を行った。

幸福

- ・ 幸福をキーワードとした総合計画の推進は、岩手独自の考えで良いと思う。
- ・ 若者が岩手で様々な活動を行っているということに希望と幸福感を持つことができた。こういう人や取組が増えることが、岩手の持続可能性に繋がっていくと思う。

仕事関係

- ・ U・Iターンの減少が、地域企業の人手不足、後継者不足という課題につながってきていると感じている。
- ・ 新卒採用で県外から岩手にU・Iターンする人は、周りに少ない。もっとキャリア採用を重視した方が良いのでは。
- ・ キャリアの方は、知識やスキルを身に付け、ステップアップをして岩手に戻ってくるが、県内企業にとっては、キャリアの方を受け入れる賃金・労働環境・働き方などの体制整備が難しいという話を聞く。
- ・ 新卒採用を予定している企業に対して採用状況を調査しているが、例年、8割弱ぐらいは予定数を確保できていない。企業の経営にも大きく影響を及ぼす。
- ・ フルリモートなら、県外居住でも県内企業に就職する働き方が成り立つのでは。
- ・ 自治体と事業者を結ぶ中間支援組織の収益体制が取りにくい構造となっている。
- ・ 課題の解決に向けては、企業だけで解決できる問題と産学官金連携で解決すべき問題があり、その住み分けを明確化すると、進みやすいと考えている。

家族・子育て関係

- ・ 子育てには、**柔軟に働ける制度**が重要と思う。社会増の地域にはこうした企業が多いのでは。
- ・ 岩手県の取組を聞いて**子育て環境が魅力的**と感じたが、**正直あまり知らなかった**。
- ・ 県外に出ると、岩手県の情報に触れる機会が減り、情報を知らない。中学や高校などで**早い時期に岩手の政策を周知**した方が良いのではないか。そうすることで、**人生設計の選択肢に岩手県が上がってくるのではないか**。
- ・ 子育てへの**男性の参画を後押しする仕組み**が必要ではないか。

移住・定住・関係人口関係

- ・ 自分の周りを見ると、地方から首都圏に出た人は、**ほぼ全員が首都圏に残る**。次の10年は**関係人口の増加が重要**。企業・サークル・大学レベルの交流が長期的関係につながるのではないか。
- ・ 人生の拠点を移す時期は、進学、就職、結婚・出産の3つ。進学と就職は「学びたい内容」「働きたい職種」でどこに行くか決まるが、**結婚・出産は、首都圏以外は各地域とも似た状況**であり、**施策次第でU・Iターンを取り込めるのではないか**。
- ・ **20代・30代前半は県外で働くが、その人の希望するタイミングでU・Iターンをしやすい**など、**懐を広く捉えた方が岩手を選択しやすくなる**という感覚を強く持っている。

人口減少への向き合い方

- ・ 今後は、人口減少による諸課題に対処するよりも、**縮小する前提に立ち、縮小しながらも充実させていく**、相反することをどう両立させるかという**縮充のアプローチが重要**になると思う。
- ・ 担い手やプレーヤーが地域にいないと産業や地域社会は維持できない。**担い手の解釈も拡大**していけないかと思い法人を設立した。

ジェンダーギャップ関係

- ・ 「**ジェンダーギャップの解消**」が、今後の**県の取組全体**にかかっている。**この視点があることが、岩手の強み**と思う。
- ・ 人口減少というと、子どもを生む臓器、性を持っている人に関わる話になる。それは**プレッシャー**でもあり、**自分の生き方や人権を真ん中に思ったときに、疑問符や「もやもや」**がある。
- ・ 今47、48歳以上の人は家庭科の授業が男女別で、「男性はこういうもの」「女性はこういう勉強をしましょう」と分かれて行われていた。この**世代間ギャップは大きく、今が時代の転換期、移行期で、重要な時期**に来ているのではないかと思う。
- ・ 従業員調査によると、**「アンコンシャス・バイアス」という言葉を知っていたのは約15%**であるが、身近で**差別的と感じた割合は約5割**。様々な取組がまだ行き届いていない。

メッセージ性

- ・（少子化対策の柱立てについて）「有配偶率の向上」、「有配偶出生率の向上」という言葉を変えたり、違う表現にしてほしい。今は養子縁組まで含めた、いろいろな家族の形がある。**インクルージョン施策をしようとしている岩手県にそぐわないのではないか**と思う。
- ・ 岩手の子育て環境がすごく充実してきていると思うが、**表現でひっかかってしまったらもったいない**。
- ・ 子どもが減り、地域の担い手が減るのは大きな課題かもしれないが、**若者世代への押し付け**のようなところもあると思うので、**このギャップ感を解消できたらいい**と思う。

岩手に戻らない・就職しない理由

- ・ 進学時は、学びたい分野の学部が県内に無かったため、上京した。就職時は、全国放送の番組制作がやりたくて東京の制作会社に入った。**自分の人生なので、まず自分が働きたいことをやろうと**。
- ・ 岩手が好きで、自分が生まれ育ったところで子育てするのが一番イメージを持ちやすいが、**戻るかどうかは、仕事、子育て環境、パートナー次第**。
- ・ 就職先はフルリモートなので岩手でも働けるが、仕事の空き時間に行う副業の**選択肢が東京の方が多**い。働ける時は東京で働き、落ち着いたたら岩手に戻ればと思っている。

- 次回以降の議論の土台とするため、いただいた御意見に共通する事項を次のとおり整理しました。

施策の方向性に関する観点

希望の後押し……………学び、仕事、働き方、副業、結婚、出産、子育て

つながりの拡大……………関係人口、県外での岩手とのつながり

変化に適応するアプローチ…社会構造の変化（縮小と充実の両立、担い手不足）
意識・行動の変化（多様性、U・Iターン減少、ジェンダー世代間ギャップ）

施策の推進に必要な観点

情報との接点……………早い段階で岩手を知ってもらう、人生設計の選択肢、県外で岩手を感じる機会

メッセージ性……………伝わり方、包摂性

▶ 上記の観点を踏まえ、「若者・女性からより一層選ばれる岩手」を実現するための議論を進めていくこととします。

【参考】委員名簿（敬称略）

	氏名	主な所属団体等	県外在住
1	牛崎 志緒	ジョブカフェいわて	
2	西條 匡杜	地域志向型インターンシップネットワークinいわて	○
3	佐藤 柊平	一般社団法人いわて圏	
4	山影 峻矢	manordaいわて株式会社	
5	山屋 理恵	岩手県男女共同参画センター	
6	櫻井 陽	一般社団法人いわて地域おこし協力隊ネットワーク	
7	細川 瑠杏	岩手わかすフェス実行委員会	○
8	吉田 知世	岩手わかすフェス実行委員会	○